

# 未使用の京大型カード

F0116

あるく、ウメサオタダオ展



1964～65年 44歳のころ



『知的生産の技術』（1969年）では、ノートからカードに転記するかわりに、直接、カードに記録していくことを提案しました。京都大学人文科学研究所の共同研究会でも、直接カードに記録する方法がおこなわれていました。梅棹がいろいろためしたのち決定したカードは、105kgの画用紙をB6サイズに切り、裏にうすい青色で線を印刷したものでした。それをずっと特別注文しつづけています。B6サイズのカードは、当時は「京大型カード」、いまは「京大式カード」という名まえで市販されていますが、梅棹のカードとは別ものです。